

鳩山町重層的支援体制整備事業のための福祉事業等意向調査及び鳩山町高齢者福祉総合計画アンケート調査結果報告書 補足説明

【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】

項目	頁	内容	結果から
2 あなたの ご家族や 生活状況 について	P12	どの地区も夫婦二人暮らし（配偶者 65 歳以上）が多い。90 歳以上の方は、多世代との同居が多い。	多世代の減少 骨折・転倒のリスク
	P14	90 歳以上は家族からの何らかの介護を受けている方が多い。介護者は主に家族。	
	P16	介護が必要になった要因は、どの世代でも「高齢による衰弱」「骨折・転倒」「関節の病気」が多い。	
	P22	経済的にみて「ふつう」が地区・世代問わず多いが「やや苦しい」も次いで多い。	
3 からだを 動かすこ とについ て	P27	回答者が要介護を受けていない方（要支援の方含む）が多いため、比較のご自身で体を動かすことができる方が多い。年齢が上がるにつれ、できない方が増える。	外出の減少に伴い、体を動かすことの減少 また、足腰の痛みにより、より動かなくなる 転倒のリスクが高まる
	P33	過去 1 年間に転んだ経験が「ない」方が多いが、「1 度ある」かたも、年齢が上がるにつれ増える。	
	P39	NT 地区の方の外出の回数が減っている。年齢が上がるにつれ、回数が減る方が増える。	
	P43	外出を控える理由として「足腰の痛み」が今宿地区では多く、また、90 代の方に多く見られる。	
	P46	外出の手段は NT 地区では「徒歩」、亀井地区では「自動車に乗せてもらう」が多い。自動車は年代が若い方が自分で運転し、年齢が上がるにつれて乗せてもらう方が増える。	
4 食べるこ とについ て	P51	年齢が上がるにつれ、嚥下機能の低下がある。	嚥下や噛むことの重要性 誰かと食事をする機会の設定
	P60	年齢が上がるにつれ、ご自分の歯の本数が少なくなる。	
	P68	単身世帯の方は、どなたかと食事をもにする機会は少ない。	
5 毎日の生 活につい て	P70	物忘れに不安を感じている方が、亀井地区で多く、年齢では上がるにつれ、多い。	地区、世代、家族構成により生活は多様化している
	P72	単身世帯の方の多くは、ご自分でできている方が多い。年齢が上がるにつれ、できない方が多い。	
	P82	金銭面の管理は、多世代で暮らしている方は、ご家族が管理していることが多い。	
	P102	NT 地区では、趣味や生きがいのある方の比率が高く、年齢が上がるにつれ、比率が下がる。	

6 地域での活動について	P124	会・グループの参加は「町内会・自治会」、「収入のある仕事」が比較的多い。65～69歳の方の約4割が週2日以上働いている。	65歳代の地域づくりへの参加の促進
	P130	地域づくりへの参加者としての参加についてNT地区の「参加してもよい」の回答が多く、年代では65～69歳が多い。	
	P133	地域づくりへのお世話役としての参加についてNT地区の「参加してもよい」の回答が多く、年代では65～69歳が多い。	
7 たすけあいについて	P136	心配事や愚痴を聞いてくれる方は、「配偶者」「友人」がどの地域でも多い。年代が上がるにつれ、配偶者の比率は下がる。	地域や医療機関との連携
	P148	家族以外の相談相手については「医師・歯科医師・看護師」がどの地区でも多く、90代では「地域包括支援センター・役場」が多い。	
	P151	友人・知人に会う頻度は、「週に何度かある」がどの地区でも多く、年代が上がると「ほとんどない」の比率が高くなる。90代については「月に何度かある」の比率も高い。	
8 健康について	P160	健康についてどの地区、どの世代でも「まあよい」の比率が高い。	高血圧に対する対応の必要性
	P165	気分の落ち込みについて比率では亀井地区が多くなっている。2人世帯（65歳未満）及び息子・娘との2世帯の比率が高い。	
	P173	既往については、どの地区でも「高血圧」が高く、2人世帯（65歳未満）に比率が高い。	
9 認知症	P180	認知症窓口を知らない方が多く差はない。	窓口の普及啓発
10 重層的支援体制整備事業について	P206	近隣との交流は、亀井地区が親しく付き合っている、今宿・NT地区があいさつする程度の比率が多い。単身世帯は親しく付き合っている比率が高い	地区によって交流に差がある
	P208	地域との交流を深める活動について「清掃活動」がどの地区でも多く、「今後したい」については、若い年代の意向が多い。	
11 生きがい	P211	介護予防について亀井地区は「認知症予防教室」、今宿・NT地区は「運動教室」の比率が高い。	各教室の充実（地域支援事業）

づくり・ 介護予防 について	P223	認知症への取り組みの希望について、亀井・今宿地区は施設の充実、NT 地区は仕組みづくりの比率が高い。	
1 2 日常生活 の心配ご とや必要 な支援	P227	亀井・NT 地区では「災害時の心配」、今宿地区では「認知症の心配」の比率が高い。年代が上がるにつれ、基礎体力の低下や転倒の心配が高くなる。単身世帯は他の世帯に比べて「頼れる人がいない」の比率が高い。	配食サービス、ゴミ出し等の日常支援の検討
	P241	必要な在宅支援サービスは、どの地区でも「配食」が高く、年齢が上がるにつれ各種サービスの比率が下がる。単身世帯では「ゴミ出し」の比率が高い。	
	P247	介護以外のサービスの今後の利用希望については亀井地区では「緊急通報装置」の比率が高い。	
1 3 防災対策 について	P261	ひとりで避難できる方が多いが、亀井地区及び単身世帯は「わからない」の比率も高い。年代が上がるにつれ「できない」も高くなっている。	災害時の情報伝達の重要性
	P265	災害時の支援の希望については、どの地区でも「情報の入手」が高く、亀井地区及び 85～89 歳では「家族との連絡」の比率も高い。	
	P269	避難行動要支援者支援制度について亀井地区では「知っている」比率が高く、2人世帯（65 歳未満）の「知らない」比率が高い。	
1 4 今後の暮 らしや将 来の介護 について	P272	「家族に負担をかけること」は亀井地区に多い。単身世帯は「介護してくれる家族がいないこと」が他より高い。	在宅サービス、施設サービスの充足
	P276	介護を受けるときは、亀井地区及び 85 歳以上は「自宅で家族による介護を中心に受けたい」が多い。単身世帯は「施設での介護」が高い。	
	P279	在宅の暮らしのために特に重要なことは、「往診してくれる医療機関」は年代問わず多く、特に 85～89 歳は「介護してくれる家族等」が高い。単身世帯では「宅配サービス」が他より高い。	

【介護サービス利用者アンケート 居宅要介護（要支援）者】

問	頁	内容	結果から
問 7	P290	施設入所について検討していない方が半数以上。検討している方の特徴は「80歳以上」、半数が「認知症」を有している。	在宅サービスの充実
問 10	P293	通所介護、通所リハビリ、小規模多機能型居宅介護、ショートステイに利用が多い。	
問 11	P297	サービスを利用するほどの状態ではない方が多い。	
問 12	P298	利用しているサービスは、配食、移送サービスが多い。	配食サービス、 移動手段の確保
問 13	P299	今後の希望は、移送サービス、外出同行が多い。	
問 16	P301	「主な介護者が仕事を辞めた」が約1割程度	介護者支援の 充実
問 17	P302	主な介護者は「子」が多い。	
問 19	P303	主な介護者の年齢は「50歳代」「60歳代」が多い。	
問 20	P304	介護の内容は「外出付き添い」「家事全般」「諸手続き」	
問 21	P305	不安なことは「外出付き添い」「認知症への対応」	

【居住変更実態調査】

問	頁	内容	結果から
問 3	P311	サ高住は要介護1、GHは要介護3、特養は要介護4が多い。	施設に入所等 する方は、介護 度が高い。医療 行為が必要で も入所できる が対応にも限 度がある。
問 4	P313	介護福祉施設入所等でも医療処置を受けている方もいる。	
問 10	P317	医療的ケア・医療的処置が高まると退去する傾向にある。	

「第9期鳩山町高齢者福祉計画総合計画」策定に係るヒアリング結果

項目	内容
(1) 貴団体の課題	人手不足。介護保険サービス以外の支援。利用者に対する対応
(2) 町の福祉課題	高齢化率の上昇に伴う介護利用の増加の対応（サービスが充足可能か）。 転居された高齢者の交流不足、サービスにつながらない高齢者の増加。免許返納後の移動手段。町全体で支える仕組みづくり、相談体制の充実。
(3) 貴団体の課題 解決のために	地域包括支援センターとの連携。介護サービスを通じて課題を拾い上げ、 地域問題として提供する。地域内の悩み・困りごと等を大字やボランティアの協力を得て充実させる
(4) 町への提言等	介護保険以外のサービスの充実。地域社会全体での「支え合い」「助け合い」のインフォーマルサービスの充実。